

大鹿村中央構造線博物館たより 115号



2018年12月発行

TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

小渋川の河原を歩いてみました！

2018年10月29日（月）、大鹿小学校6年生の理科授業「地層の作り方」を実施しました。内容自体は、昨年度とほぼ同じで、小渋川の河原の観察、室内実験、室外実験、小学校建設時のボーリングコアの観察等ですが、今年は、大雨が相次ぎ、小渋川の河原の様子がだいぶ変わってしまったようなので、河原の観察時間をたっぷりとることとなりました。

小渋橋から下流側を撮った写真を昨年のも（写真1）と今年のもの（写真2）とで見比べてみたところ、昨年の時点では、小渋川は、小学校側（右岸側）と博物館側（左岸側）とに分かれて流れており、小学校のあたりで両者が合流する流路もできているのに対して、現在は、博物館側だけに水が流れている状態であることがわかりました。昨年までは、博物館側から河原に下りて観察をしていましたが、今年は、博物館側には、ほとんど河原がなく、川の流路になってしまっているため、今年は、小学校側から河原に降りて観察をすることになりました。



写真1 2017年11月16日小渋橋より下流方向を撮影



写真2 2018年10月17日小渋橋より下流方向を撮影

早速、小学校前の河原に降りていくと、途中、河川敷の芝生のあたりや石積みのあたりで大きな流木が散らばっているのが見つかりました（写真3）。これは、大雨のときに、この位置まで水が流れていたことを示しています。これらの流木は、とても重くて、簡単には持ち上がりませんが、川が増水したときには、川に浮いて流れてくるそうです。さらに、河床まで下りてみたところ、増水の後で、水が引いたときに、削り込まれた跡が残っていました（写真4）。



写真3 河床より高いところにある流木



写真4 増水後に水が引いたときに削り込まれた跡

次に、周囲の河原に堆積している礫を眺めてみると、ちょっと不明瞭ですが、平べったい形のもものが、全体同じ方向に傾いて堆積しているように見えます（写真5）。平べったい面を上流側に向けた状態の方が、水の抵抗を受けにくいために、このような配列に並ぶそうで、屋根瓦のように重なり合っていることから、覆瓦構造もしくはインブリケーションといいます。

最後に小渋橋より少し上流まで歩いてみたところ、砂の堆積しているところに、不思議な模様が見られました（写真6）。これは、水の流れによって、堆積物の表面に作られる周期的な波状の模様で、波を表す「漣」の文字を使って、漣痕もしくはリップルマークといいます。上流側の傾斜の緩い斜面の砂粒が削られ、下流側の急な斜面を転がり落ちて堆積するため、波の模様から川の流れた向きが分かるそうです。



写真5 河原の礫が一定方向を向いている様子

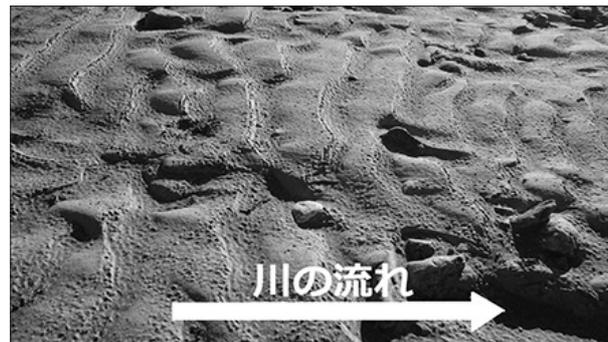


写真6 砂でできた波模様

毎日の学校生活に追われていると、川を眺める機会はなかなかないかもしれませんが、小渋川は小学校のすぐ隣を流れているので、ときどきは、河原の様子を気にしてみると、面白い発見があるかもしれません。

* 2018年度 諸外国写真上映会 *

西方見聞録 「世界はこんなふうだった」

第4回 中央アジア編

大鹿村在住の伊東一郎さんが2000年から2002年にかけて滞在した中央アジア・キルギスをはじめ、2015年に撮影したウズベキスタン及びタジキスタンの写真をスライド上映。中央アジアの豊かな自然と極めて独特なシルクロードの文化遺跡、そこに住む多様な人々の暮らしなど、多数の写真をご自身の簡単な解説付きで紹介上映します。

第1話（1月5日（土）） ウズベキスタンー1

首都タシケントから青の都とも呼ばれるサマルカンド周辺と、それらシルクロード都市を支えたフェルガナ盆地を巡る。

第2話（1月6日（日）） キルギス共和国

典型的な騎馬民族の国。天山山脈の支脈をなす山々と広大な草原に囲まれた、放牧家畜たちの天国。

第3話（1月9日（水）） ウズベキスタンー2

マルコ・ポーロの「東方見聞録」冒頭に輝くような都市と描かれるエキゾチックな世界文化遺産ブハラ。

第4話（1月10日（木）） タジキスタン

世界の屋根といわれるパミール高原を走る舗装道路はパミール・ハイウェイと呼ばれ、サイクリストたちの聖地。その隣にはアフガニスタン・インドゥークシの急峻な山々が連なる。

第5話（1月11日（金）） ウズベキスタンー3

やはり世界文化遺産とされているヒヴァの古代城塞都市イチャン・カラを中心にアラル海に至る周辺砂漠地帯。



- ◆上映時間 14：00～16：00頃
- ◆場 所 大鹿村中央構造線博物館学習室
- ◆入 場 料 無料
- ◆主 催 大鹿村中央構造線博物館